

第74号
2011年11月

風

発行

群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町3-19-3

『風』はホームページでもご覧いただけます
<http://gunma.kenren-coop.jp/>
Eメール: mail@gunma.kenren-coop.jp

女性協が恒例の視察研修会を開催

10月1日(土)

東京大空襲・戦災資料センターと江戸東京博物館を見学

本年度の女性協視察研修会は、江戸東京博物館と東京大空襲戦災資料センターを見学しました。7単協、39名(子ども4名)の参加でした。

家族・夫婦の参加も見受けられ、行きの車中では自己紹介をしながら交流をはかり、途中車中から見えるスカイツリーに感嘆の声を挙げているうちに目的地に着きました。

江戸東京博物館は平成5年に開館。400年余にわたる江戸東京の歴史と文化を振り返り、その遺産を守るとともに、新しい文化創造の場となることをめざして創られた博物館だそうです。ラッキーなことに特別展は「世界遺産ヴェネツィア展ー7世紀末の共和国成立から1797年のナポレオンに降伏するまでの間に、強大な海軍力と交易による富を背景に栄えた都市。ヴェネツィアの華やかな歴史と芸術を約140点の作品により紹介していました。



戦災資料センター外観

戦災資料センターは公的援助なしに民立民営のセンター。江戸東京博物館の次に訪問したので落差(?)にびっくり。館長が早乙女勝元氏、来年は開館10周年。館内は1970年より収集したという文献や絵画・物品など大空襲と戦災の記憶な資料が広く展示され、温かみと恐ろしさ憎さが葛藤しあい複雑な思いで見学しました。

いのちと平和のバトンを未来にきちんと受け渡すためのひとつの手段や学習の場として、重要な役割をになうセンターですので、存続させていかなばと思いました。

群馬から個人ではなかなか訪れない施設かなと思いますので、よい機会を持てたのではないのでしょうか。以下、参加者の感想をご紹介します。

編集委員 秋山ユミ子(生活クラブ)

女性協視察研修会に参加して

林大幹さん(パルシステム群馬組合員ご家族)

今回、家族総出で参加した男女共同参画の…実は生協自体、活動規模や内容を知りませんでした。

行きのバスではひたすら携帯電話片手にネットで生協のことやら行った先の建物のことやらを調べつつ…

無事見学も終わり帰りのバスの中でも感想として挙げさせて頂いた点は2つです。

①「猿が機関銃を持つ」ということの危険性。当時世界中が似たような狂気に支配され、日本も無差別空爆の加害者でもあり、被害者でもあり…

半世紀以上が過ぎ、更に科学技術は進展した一方で人の倫理観はどれだけの成長を遂げたのでしょうか。

科学は運用する人によって戦争以上の悲惨な事態もおきかねません。実に便利で怖い時代に今



投下されたナバーム弾

我々は生きていたと思いました。

②「大本営発表」の恐ろしさ。今まさに火事が物凄いことになってる…という時に放送されたあのラジオ…

情報が正しく伝わらない、伝えられないというのは本当に恐ろしいことです。まさに今の日本??

視察研修に参加して

藤岡秀之さん（コープぐんま組合員ご家族）



東京大空襲の記録映画を見ました

今回の視察研修に、家族そろって初めて参加させていただきました。

午前中まず訪ねた場所は、「江戸東京博物館」でした。この日は特別展として「ヴェネツィア展」も開催されていて、2つの文化を併せて楽しむことができました。特に常設展示室では、江戸時代の火消しで使われていた『まとい』を実際に手にすることができ、息子もその重さに大変驚いていました。

午後、次に訪ねた場所は「東京大空襲・戦災資料センター」でした。ここでは、当時の貴重な映像・写真・絵画・書籍などの資料が展示されていました。私の母がちょうど終戦の年の生まれということもあり、当時の時代背景がまざまざと伝わってきて私自身とても感慨深いものを感じながらそれらを拝見させていただきました。

今回の視察研修を終えて、親子共々とても良い生きた経験と思い出づくりができたと感じています。

研修旅行に参加して

武藤励子さん（コープぐんま組合員）

生協の沢山のチラシの中に合った研修旅行へのお誘い、ここのところ一人旅の気楽さを味わっている私にとって何と魅力あるでしょうか。江戸東京博物館へは前に行ったが、時間がなくて常設展まで見ることができなかつたので、これはチャンスと思い単純な動機での申込みであった。運よく参加できることになり、江戸東京博物館の特別展は『世界遺産ベネツィア展』、ヤッター！という気持ち。

それと東京大空襲・戦災資料センターの見学、こちらは行ったことのない所なので、一度は見る価値があるなどの思いを胸にバスに乗り込む。バスの中は自己紹介など行うが、え！生協の女性部の研修旅行？私が参加して良かったのかな～と一瞬頭をよぎったが、会員だものよいのよねと自分で納得、そうこうする内に、一時間早く博物館に到着。特別展では案内ガイドを借りて心ゆくまで鑑賞でき満足・満足！ガイドの中で盲目のピアニスト辻井伸行さんの『ベネチアの風に吹かれて』の公式テーマ曲に魅了されCDを購入、今も毎晩そのピアノ曲を聴きながら眠る贅沢を味わっている。



江戸東京博物館

女性協視察研修会に参加して

角田澄江さん（北毛保健生協職員）



描かれていたのはまっ黒な死体の山

今年の視察研修会は、東京大空襲・戦災資料センターと江戸東京博物館を見学しました。

江戸東京博物館はベネチア展が開かれていました。私もベネチアを訪れたことがあるので、昔のサンマルコ広場の絵画を見て昔のままであることを確認し、懐かしく思いました。

東京大空襲・戦災資料センターは1945年3月10日の東京大空襲の文献や物品を展示してあります。最初に約300機のアメリカ軍爆撃機B29が東京下町を爆撃する映像を見まし

た。B29から爆弾を投下する「ヒュウ」という音、雨のように落ちる爆弾、火炎は異様であるし、地獄であり、胸が締め付けられる思いでした。罹災者100万人、10万人の命が失われました。

展示品の中には黒焦げの死体の山の写真、母に背負われ逃げまどった赤ん坊の毛糸の帽子、哺乳瓶、手提げかばんもありました。帽子と哺乳瓶を提供したお母さんは、逃げ延びて7か月の赤ちゃんを背から降ろしたときは死亡していたそうです。

江戸東京博物館はバブルの時に建設された建物。東京大空襲・戦災資料センターは4000名を超える人々の募金で設立された民立民営の資料センターです。負の遺産を次世代に残して伝えるため本当なら公の資金で設立すべきであったと思います。

私が住んでいる渋川市も大正橋、日本カーリット工場、旧中央公民館が爆撃にあって死傷者も出ています。改めて平和の尊さを感じました。

第43回群馬県生協大会が開催されました “受賞の思い”をお聞きました

10月27日(木)

10月27日(木)、第43回群馬県生協大会(実行委員長:松本勉枝さん)が群馬県公社総合ビルホールで開催され、永年勤続の役職員85名と、優良組合員活動の13団体が表彰を受けました。受賞者に、受賞の思いなどをお聞きました。

30年を振り返って

30年勤続で表彰された望月節子さん(利根保健生協)

私が30年と永きに渡って利根保健生協で働いて来られたのは、働きやすい職場に恵まれた事、自分自身が健康であった事と、私を支えてくれた仲間や家族のお陰だと心より感謝しております。仕事面では産婦人科病棟勤務が長かった事もあり数千人の赤ちゃんに出逢いハッピーな気分になったり、その時の赤ちゃんが母となり親子二代のお世話をさせていただいた事、時には辛い場面もあり涙した事も忘れられません。

プライベートでは40代で車の免許を取得し、休日には夫と県内外にドライブに出掛けたりしたことや、職場の仲間に誘ってもらって始めた登山も忘れられないものです。頂上を目指し歩く先々で出逢う可憐な花々や景観は、登った人にしか掴めない登山の醍醐味でもあります。また、登頂時の達成感は素晴らしものです。

働く事も遊ぶ事も健康であるからこそ楽しめる事であり、今も月8回ほどの夜勤をこなし、数年後に迎える定年まで生協の一員として頑張っていく所存です。

今回の表彰、誠にありがとうございました。



永年勤続表彰の様子

受賞した「支部ステーション」(生活クラブ生協)を取材しました

安心・安全な食べ物を多くの人達に提供したい。同じ目的をもつ者同士のコミュニティを作りたい。そんな希望を具体化した女性たちの集まり、それが今回受賞した生活クラブ生協高崎支部の「支部ステーション」です。

「あったらいいな」は誰でも考え、望むものですが、いざ具体化するのは大変なこと。何が原動力となったのだろうか?

「生活クラブファン」を拡げる活動を行っていく中で、地



表彰を受ける「支部ステーション」(生活クラブ生協)

域性を活かした組合員活動をよりよい方向へ持っていくには・・・考えました、話し合いました、努力しました。“自分の出来ることを、出来る分だけ担う”——負担感はなく、達成感ややりがいは大くなる。家族を巻き込んで活動の意義を話すことももちろん大事という組合員は、「自主管理、自主運営」の新生支部ステーションをごく普通に受け止めている。

最大の牽引力のリーダー五十嵐康子さんの人間力が夢を現実のものとしたのだと確信する。いつでも誰でも集える「たまり場」の今後の活動を期待したいと思います。

編集委員 宮澤孝子（北毛保健生協）

中央地連第2回男女共同参画懇談会に参加 11月2日(水) 職員満足度の高い組織づくりを進める福井県民生協の経験を学びました

11月2日、日生協中央地連第2回男女共同参画懇談会が、中野の東京都生協連会館で30生協・都県連から64人が参加して開催されました。群馬県生協連から林会長、清野事務局長、藤原運営委員の3名が出席しました。

「すすめましょう 計画から行動へ 生協の男女共同参画 ～先進事例から学び、次の一歩へ～」をテーマに、福井県民生協の取り組みを聞きました。演題は「職員満足度の高い組織づくりを目指して」で、福井県民生協管理部次長



グループ討議の様子

の内麻良恵さんが、人口80万、女性の社会進出は全国1位で6割近くになる福井県の紹介と、1,070人が働く県民生協の「組合員の満足と地域社会のために」

企業責任を果たすことを当然として実行していることを話されました。驚き感心したのは職員の定着と人材育成をはかるために、様々な制度があり、きめ細かな対応や支援を行っていることでした。

共同購入や個配、店舗のほか、子育て支援センターや介護福祉事業も運営する福井県民生協の意欲ある取り組みに習いたいと思いました。

運営委員 藤原京子（利根保健生協）



内麻良恵さん

群馬県男女共同参画講演会が太田の縁切寺で開催 家族のなかでの共同参画 ～男と女の間を考える 10月16日(日)

10月16日（日）の午後、「家族のなかでの共同参画」と題した講演会が開かれました。（主催は群馬県ぐんま男女共同参画センター・太田市・縁切寺満徳寺）会場は満徳寺の本堂でした。

満徳寺は江戸時代、女性のための駆け込み寺として幕府の許可を得ていた尼寺で、夫婦間のもめごと（離縁・復縁）の解決にあたり、女性の救済に大きな役割を担った所だそうです。そのような場所で開かれた講演会の講師をつとめた金城清子さん（前 龍谷大学法科大学院教授）は、長年、共同参画について研究されてきた方です。

金城清子さんのお話から、男女が協力し、共同経営者のようにしていた「農業社会」から、性別分業（男は外、女は内）の「工業社会」への変化が男女の仕事分担を定着させていったことと、その流れがよくわかりました。

現在の「情報社会」ではコンピューターの普及により、家庭内で仕事ができる機会が増え、男女の性別分業がなくなる可能性についても伺いました。

参加者との質疑応答も大変活発で、晴天の午後、本堂を吹き抜ける秋の心地よい風を感じながらの大変充実した講演会となりました。



金城清子さん